



## 編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-06-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森岡, 次郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/14489">http://hdl.handle.net/10466/14489</a>

## 編集後記

『人間社会学研究集録』の記念すべき第10号をお届けいたします。今回は5本の研究論文を掲載することができました。

前号まで本誌を担当された住友陽文さんから引き継ぎ、今回初めて編集を担当しました。編集にあたり、あらためて感じたこと。それは、査読者はとても丁寧に投稿論文を読み、厳正に評価している、ということです。

「いうまでもない」「当たり前のこと」と思われるかもしれませんが、今回投稿された方、今後に投稿を予定している方には、ぜひとも伝えておきたいと思い、ここに記しておきます。

投稿された論文には厳しい修正コメントが付されたと思いますが、それらは決して、論文のアラを探して格付けするような、査定的な眼差しからのものではありません。査読者からは「この論文をできるだけ良いものにして、何とか掲載させたい」といったコメントを何度も聞きました。本誌が研究者養成のため、研究論文のクオリティを上げるためのトレーニングの場として、重要な教育的役割を担っていることをあらためて認識しました。

研究課題を明確に設定し、論拠を示しながらしっかりと論証し、丁寧に自分の主張を伝えていく。自分の頭の中で、また、仲間内の議論の中では出来ているつもりでいても、外部の読者には伝わらないことがあります。研究論文を発表することは、見知らぬ誰かに自分の主張を伝えることでもあります。

第三者からの査読を受けることにより、「査読者の無理解によって自分の主張が伝わらなかった」と思うのではなく、「なぜ伝わらなかったのか、どうすれば伝えることができるのか」と考えてみてください。「自分では伝えているはずなのに、十分に伝わっていない」という経験をするからこそ、査読付の研究誌に投稿する意義だと思えます。

今号より執筆資格が一部改正され、人間社会学研究科の博士後期課程を退学した方も投稿が可能となりました。第11号に多くの投稿があることを期待しています。また、本誌で鍛えられた研究テーマを発展させ、学会誌などのより大きな媒体に投稿・掲載されることを期待しています。

ご多忙の折、査読の労を執られた先生方には、あらためてお礼申し上げます。また英文チェックをお引き受けいただいたスコウラップ先生にも、厚くお礼申し上げます。

(文責 森岡次郎)